

①事業の基礎情報

事業名	アシタのたかはま研究事業		担当部・グループ名	企画部 総合政策グループ						
実施期間	平成 26 年度～平成 29 年度		担当 GL 氏名	野口 恒夫						
新規・継続の別	継続事業		電話番号(内線)	52-1111(内線 352)						
総合計画(基本計画)体系	個別目標	(1)まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます		予 算 書 上 の 予 算 ・ 事 業 名						
	こんなことに取り組みます	“大家族”のみんなが幸せな生活を送ることができるよう、高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を高める取組みを進めます。		款						
	みんなで目指すまちづくり指標名	いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合		項						
	現状値(H25)	79	実績値(H26)	83	実績値(H27)	82	実績値(H28)		目標値(H29)	85
				目	12目 企画費		事業名	5 アシタのたかはま研究事業		
				総合戦略	■該当する □該当しない					

②事業の概要

目的 (何をどうするために)	★高浜市の将来を見据え、中長期的な政策課題を明らかにする。 ★課題解決に向けた研究・立案・実践を通じて、高浜市に暮らす心地よさを高める。 ★研究成果や人、想いを第6次高浜市総合計画後期基本計画の策定等につなげていく。		
対象(誰・何を対象に)	市民	対象の数量	46,373 人
最終目標 (最終的に何がどうなれば達成か)	☆研究成果を活用し、第6次高浜市総合計画後期基本計画を策定する。 ☆中長期的な課題を明らかにし、将来を見据えた戦略的市政経営が行えるようになる。 ☆市民の高浜市で暮らす日常の「心地よさ」が高まる。		

③事業にかかる事業費概要

平成 27 年度 (当初予算額)		決算額	主な内容		
事業費総額 (千円)		11,810	11,047	・研究所アドバイザー謝礼 390 千円	
財源内訳	一般財源	11,810	11,047	・しあわせづくり計画策定委託料 9,580 千円	
	特定財源	国・県支出金	—	—	ほか
		その他	—	—	
補助事業・単独事業の別		単独事業	単独事業		



← &計画書(実践編)
しあわせづくりワークショップ



← 高浜版総合戦略
総合戦略に係る意見交換会

④平成 27 年度の実施内容（目指す姿の実現に向けて、どんなことに取り組んできたのかを整理する）

	何を・どのように・どうした ※箇条書きで記載する	いつ(年月)	アウトプット
実施内容	◆高浜市みらい会議で田中猪夫氏を招き、将来の行政サービスのあり方について検討した。	H27.8	—
	◆やってみよMyプロジェクト（新規採用職員バージョン）を実施した。	H27.9	企画等の実践体験の機会創出
	◆高浜市人口ビジョン及び高浜版総合戦略を策定した。	H28.3	計画書の策定
	◆しあわせづくり計画に伴う市民ヒアリング・ワークショップ・フォーラムを実施した。	H27.4～ H28.3	計画書（本編・実践編）の策定
参画・協働・ 情報共有の工夫	★計画策定時、市民や産学官金労言へのヒアリング等、直接市民や関係者の声を聞くことでニーズの把握を行った。		
	★ワークショップのメンバー募集については、市内の商店や企業、高校、他の事業で絡みがある大学生へのアプローチなど、新たな層の人材発掘に努めた。		
進捗状況	人口ビジョン及び総合戦略については、上乘せ交付への申請を断念したことにより、策定期間を遅らせることとなったが、より内容を精査した上で年度内に策定することができた。しあわせづくり計画についても、ヒアリングやワークショップ、フォーラム等の実施を経て策定することができた。		
実施内容に 対する成果 (事業の自己評価)	☆計画（総合戦略、しあわせづくり計画）策定について、市民や産学官金労言へのヒアリングやワークショップ等、直接市民や関係者の声を聞き、計画を創りあげることができた。		
	☆より多くの市民を巻き込むという点では、やってみよ My プロジェクト及びしあわせづくり計画において、より多くの市民を巻き込むことができるとよかった。		

⑤課題と今後の取組みの方向性（平成 27 年度を振り返り、課題を抽出し、今後の取組みの考え方を整理する）

課題	今後の取組みの方向性
<u>(1) 計画策定後の実効性の担保</u> ・計画（総合戦略、しあわせづくり計画）を策定して終わりではなく、その取組みがしっかりと実行・実践されていくようにしていかなければならない。	・総合戦略については、総合計画に進行管理と統合し、しあわせづくり計画については、市民とともに実践していける仕組みを構築し、実践していく。
<u>(2) 将来の市政運営のあり方・姿に向けて</u> ・20 年後の行政サービスの将来像を創造するとともに、平成 30 年度から開始となる総合計画（後期基本計画）の策定など、将来の市政運営に向けて検討していく必要がある。	・人口データや地域経済分析システム（RESAS）などによるデータ分析やより多くの市民の声を集約するなど、市民のニーズに即した将来の市政運営のあり方を創造し、後期計画の策定につなげていく。

⑥課題解決に向けた平成 28 年度の具体的なアクション（案）

	何を・どのように・どうする ※箇条書きで記載する	いつまでに (年月)
計画(案)	◆しあわせづくり計画の実践をスタートする。	H28.9
	◆市民への意見聴取の場を創出し、総合計画の後期計画策定につなげていく。	H28.12
	◆各種データの収集分析及び個別テーマに関する調査研究を行う。	H29.3
	◆人口ビジョン・総合戦略の進行管理を行う。	H29.3
参画・協働・ 情報共有の工夫	☆ホームページやフェイスブックなどを活用し、取組状況を広く公開していく。	
	☆啓発用チラシの作成にあたっては、写真を多く掲載し、事業内容を分かりやすく伝えていく。	
	☆引き続き研究レポートの内容について広報に連載していく。	

特記事項